



## 飛んでクルーズ沖縄スノーケリング 文・写真 藤木 洋一

今年4月退職記念に商船三井客船の「にっぽん」の「飛んでクルーズ沖縄 座間味・南大東島コース」に乗船しました。このクルーズで最も興味があったのは、オプションツアーで世界屈指の透明度と珊瑚礁を誇る座間味の海でのスノーケリングでした。

私は約15年前にシュノーケリングを始めて以来、伊豆七島を皮切りに、ハワイ、グアム、インドネシアなどで泳いできましたが2012年7月8日~11日「スパースター・アクエリアス」の台湾・基隆起点の石垣~那覇クルーズに乗船して石垣島のオプションツアーで「浮潜&海水浴半日旅行」(スノーケリングと海水浴)に参加して石垣島と小浜島の間にある幻の島(干潮の時に現れる島)付近でスノーケリングをしましたが、その時の海の中の透明度、珊瑚の状態、魚の多さは、今まで経験したことのないすばらしい光景でした。座間味はそれよりも素晴らしい内容であることは色々な情報誌で確認が取れておりましたし、座間味のキャッチフレーズが「世界が恋する海」とも言われることから、ブッキングをしたときから出発が待ち遠しく心がときめきました。

4月19日久しぶりの沖縄なので那覇に前泊し、本部の沖縄美ら海博物館、世界遺産「斎場御嶽」、摩文仁の丘、を巡り、20日の「にっぽん丸」乗船前には波之上宮で航海の安全の祈願をしました。「にっぽん丸」は17時那覇クルーズターミナルを出港、時間調整のため北上し、20時名護湾で投錨しました。途中、18時那覇に向かうマルエーフェリーの「フェリー波之上」と残波岬燈台沖で反航しましたが残念ながら逆光でした。

その後、「にっぽん丸」は未明に名護湾を抜錨、翌21日7時、座間味村・安慶名敷島(あげなしく)沖に投錨しました。スノーケリングは午前・午後の二回催されましたが、私は午後に参加し、13時に「にっぽん丸」を出発し、テンドーボートで座間味港に上陸して、座間味島の南側にあるスノーケリング場所の阿真(あま)ビーチに向かいました。当日の天候は残念ながら曇りで時折小雨も降っており、気温23℃、水温19℃とスノーケリングには、少し肌寒い条件でしたがスノーケリング・セット他ウェットスーツも用意されていたので寒さは感じませんでした。募集定員一杯15名参加者は2組に分かれ、スノーケリングに関する注意事項等の説明を受け、それぞれインストラクターとともに海に入りました。約一時間のスノーケリングでしたが水中は期待通り、透明度は抜群で曇天でありながらも

海中の視界は良く、豊富なサンゴ礁と白い砂の上を遊泳するウミガメや熱帯魚のクマノミなどの魚も多く見られました。そして、座間味は私が退職前に駐在したインドネシアで訪れた世界で 2 番目に美しいダイビングポイントと言われるスラウェシ島メナドよりも海中の珊瑚も色鮮やかで美しく魚の数も多く感じました。私が体験したスノーケリングエリアは僅かですが、今までのところ石垣島を含む沖縄エリアは透明度、珊瑚礁と魚の多さでは世界でもトップクラスのスノーケリングエリアではないかと思っています。また、私は防水機能付きのデジカメを持参して海底様子を撮影しましたが、スノーケリングの主催者から後日、当日撮影した画像を DVD で送っていただくサービスもツアーの代金に含まれておりますので防水機能付きのカメラをお持ちでない方も後ほど素晴らしい画像がお手元に届くようになっております。そして 16 時 30 分、最終のテンダーボートを収容した「にっぽん丸」は 17 時、次の目的地南大東島に向けて座間味島を出港しました。

翌 22 日 9 時、「にっぽん丸」は南大東島西港沖に到着しました。南大東島は台風の進路情報に最初に登場する島として名高い島です。この島の付近の水深は約 200m と深いので錨泊できず常に推進器を駆動させて漂泊の状態夕方まで待機します。ゲストは島の北にある南大東漁港にテンダーボートで上陸します。また、この島はサンゴ礁が隆起して出来ており島の周囲は断崖絶壁の絶海の孤島です。島の周囲の水深も急に深くなるため大型の船舶が接岸できる岸壁の建設はコスト的に合わないため定期船の「だいとう」も接岸できずの貨物揚げ降ろし、旅客の乗下船は「だいとう」搭載されたコンテナをレッカーで吊って行われます。

「だいとう」のスケジュールは厳しい海象、気象に左右されるため時間ではなく航海数で設定されております。したがって、南大東島の人の移動は那覇から 1 日 3 往復ある 50 人乗りの小型旅客機がほとんどです。人々が南大東島に多数訪れるのは「にっぽん丸」の年 1 回のこのクルーズのみなので、島を挙げての歓迎が行われ、マグロ解体ショーやマグロの大東ずしや大東そばの無料提供、島民の運転する車両による鍾乳洞「星野洞」や日の丸展望台までの送迎など心のこもったおもてなしを受けました。今回は天候もよく波浪も穏やかだったので予定通り 16 時、最終のテンダーボートを収容し、「にっぽん丸」は 17 時、島民の漁船による見送りを受けて南大東島西港沖を出港し、北に位置する北大東島を周遊して日没とともに針路を那覇に向けました。

2015 年 8 月「飛んでクルーズ北海道」で本船に乗船した折、クルーズデスクに「飛んでクルーズ沖縄」の座間味・南大東コースで座間味ではスノーケリングのオプションツアーがあるか尋ねたところ季節的（4 月）な問題と寄港地の時間的な問題でできないとの回答でした。今回、座間味島でのオプションツアーにスノーケリングがなかったら私は「にっぽん丸」を選択してなかったことでしょう。「にっぽん丸」はクルーズ客船として現在ではスモールクラスに属します。このクラスを運航している会社は世界的に見ても大型船の寄港できないような港を選択し独自の商品を開発して集客に成功しております。

クルーズの最終日、私はアンケートに「今後とも「にっぽん丸」には独自のクルーズ商

品を開発していただきたいと考えています。たとえば、アイスクラスを取得して、冬季にウラジオストック周辺のクルーズを企画すれば南氷洋に行かなくても氷海のクルーズが体験できます。このような四季のはっきりしている東北アジアのクルーズには本船クラスが最適と考えます。」と書いて下船しました。

**阿真ビーチでのスノーケリング**



安慶名敷島沖に錨泊する「にっぽん丸」



阿真ビーチのウミガメ



クマノミ



南大東島



南大東島西港沖 水深が深く 錨泊できない。



テンドーボートより見た「にっぽん丸」



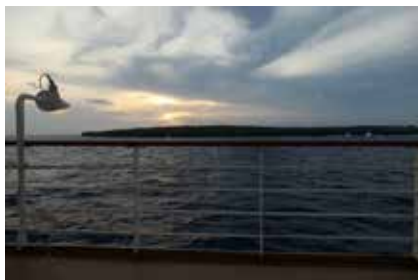
南大東漁港のテンドーボート発着場



南大東漁港と本船を往復するテンドーボート



南大東島を出港 島民の見送り



北大東島周遊



沖縄の船達



クィーンぞまみ3 座間味島



フェリーぞまみ3 座間味島



座間味島～阿嘉島を結ぶ「みつしま」



那覇港を出港する「ちゅらしま」



琉球エクスプレス2



フェリーとかしき

生活物資を満載して南大東島へ向かう  
「だいとう」

2012年7月10日撮影

